

またあした

2016年1月
全日本教職員組合（全教）幼稚園部

暖かいとはいえ本格的な寒さはやはりやってきました。1年の締めくくりの3学期が始まり忙しくされていることと思います。朝晩は冷え込んできて体調を崩しやすい季節です。体調には充分気をつけて3学期を心身ともに元気に過ごしましょう。

こども園、預かり保育 全国の状況を交流 ～2015年度 全教幼稚園部総会～

2015年度全教幼稚園部総会が2015年7月19日（日）、京都の御殿荘で行われました。まず初めに、総会で承認された常任委員の紹介をさせていただきます。力を合わせて頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

2015年度 全教幼稚園部 常任委員

部長	丸田 純子（京教組）	副部長	守行 みち子（大教組）
常任委員	近藤 央菜（都教組）	常任委員	櫻井 真由美（都教組）
常任委員	波多野 実加子（全国私教連）		
担当中執	山元 幸一	担当書記	井深 愛

総会では、2014年度のとりくみと2015年度の運動方針案を提案した後、各県交流をしました。

大阪では2014年度よりこども園化が進みました。課題や矛盾が残されたまま2015年度に開園した市があり、統廃合・民営化がすすまられています。また、2015年度は従来通りだった保育料が、2016年度より収入に合わせた保育料に変更になり、保護者の負担が増えました。

京都の幼稚園では、2015年度より全園で18時までの預かり保育が実施されました。専任の講師がついていますが、長期休業中は担任も補助に入っている状況です。幼稚園出身の管理職が少なくなり、職員会議や園内研修会議などでも議論にならないことが報告されました。

全国私教連では、全国夏季研究集会や年2回の文部科学省交渉を行っています。また、労働条件アンケートを実施しており、回答人数を増やすためにネットでの回答も始める予定です。こども園化せず幼稚園として続ける幼稚園も多くあります。こども園化により教師の多忙が激しくなり夏季休暇がとれなくなった園もあります。

東京は、6月に都教組幼稚園部の定期大会を開催し16人が参加しました。東京でもこども園化がすすんでいます。保育料が上がるのが決まっていますが、募集を受け付けが始まってでも保育料が決定していない状況です。



仲間づくり・学級づくりを学ぶ ～全教幼稚園部 夏季教育研究集会～

総会に続き、全教幼稚園部夏季研究集会が行われました。今年も全国から暑い京都に集まり、熱心に学習したり交流したりと大いに盛り上がった2日間となりました。

集会の1日目は、首都大学東京教授・浜谷直人さんによる記念講演1「特別支援が必要な子どもと仲間・学級づくり」で始まりました。講演では、特別支援教育が健常児の中に障害児が共生する統合保育（インテグレーション）から、どの子どもも尊重されるインクルーシブ保育へと変わってきた歴史を学びました。



教室から出ていく幼児を教師が無理やりクラス集団に入れると、出ていく・逃げるという状況の繰り返し。それでは教師は楽しくないし苦しい。教師がA児に寄り添い、一緒に遊びこみ、楽しむことで、B児もクラスの幼児も入ってくる。参加者は、「自尊肯定感をもてるようになったクラス集団をつくるのが大切」ということを学びました。また、大人の都合でほめると子どもはだめになる。同じように遊びこんだ楽しさ、片づけの必然性を感じているかが重要。「大人のために片づける子を育ててはいけない」と気づかされました。講演

の後、各地から実践報告を出し合い、活発な討議ができました。

2日目は、都教組荒川支部から「年長児とのかかわりの中で～よりよい集団づくりを目指して～」と京教組から「夢中になって遊びこめる子どもの育成を目指して～K児の1学期の姿を通して教師の援助や環境構成を見直す」のレポート2本の報告がありました。

報告を聞いて各自が感じたことや、自分の保育を省みての意見交換をしました。指導助言の宮里六郎さんからは、①まわりの幼児が発達障害の子を受け入れるためのプロセスについて、②ごっこ遊びの育つ力について、の助言がありました。

レポート報告で指導助言もいただいた熊本大学教授・宮里六郎さんによる記念講演2「ひとりひとりが活かされる仲間づくり・学級づくり」では、発達に弱さを抱えた子どもとまわりの子との関係づくりについて、「実践記録をもとに否定的事実を肯定的に解釈し直すこと」、「言葉で事実と気持ちを区別して進める丁寧な働きかけの大切さ」を学びました。

「預かり保育アンケート報告」では、預かり保育について各地の状況を出し合いました。「みんなで楽しくつながり遊び」では、それぞれが持ち寄った実技を交流し合い、職場に帰ってすぐにいかせる楽しい実技を交流しました（右の写真）。



最後に参加者からの感想を紹介します。記念講演1・2について、「仲間・学級づくりについて考えるよい機会になった。片づけについては、いつも声かけに悩むが、浜谷先生の『切り替え時点と活動の盛り上がり』では、自分の声かけのタイミングや言葉に問題があることを感じた」、「保育者のかかわりの大切さを知り、反省する点も多くあった。自分の思い通りに動いてくれた子どもを褒め、枠から外れる子をわがままな子どもと捉えてしまいかちな部分が自分のなかにあったことに気づいた。2学期からの自分の言動に生かして行きたい」、「言葉かけをもっとよく考えて行きたい。今まで何度も子どもが成長できるチャンスをつぶしてしまったのでは…と反省した」、「宮里先生の内容が具体的でよくわかり、深い読みと深い考察の視点を再確認できてすごく勉強になった。来てよかった」など、「自分の保育を振り返り見直すきっかけになった」との感想が多く寄せられました。



レポート報告と討論の感想は、「とても詳しく子どもの様子が伝わってくるレポートだった。お二人の細やかな子どもへの対応(向き合い方)に多くを学んだ」、「グループ討議の時間をとると、個々の発言が出やすく、いろいろな実践も出てくる」、「改めて一人一人を見ていくことの大切さを感じた」、「子どもたちに対するあたたかいまなざしや丁寧なかかわり…明日からの保育でもすぐに取り入れたい」、「毎年参加しているが、今年も参加して良かった。この研修に参加すると夏が始まったと感じる」などの感想が寄せられました。

再び来年の夏季研究集会で皆様とお会いできることを楽しみに、日々の保育に邁進していきたいと確認し合い充実した2日間の研究集会の幕を閉じました。参加された先生方、お疲れ様でした。参加されなかった先生方、ぜひ来年は参加してくださいね。